

ジャグパル

JugPal

2001年12月1日 第14号



インタビュー

【王 健 さん】

王 健(ワン ジェン)さんに初めてお会いしたのはかれこれもう6年ほど前でしょうか。

来日が1994年とのことですから、来日して間もない頃にお会いしたのでしょうか、あの頃からずっと王さんは若々しく"優しいお兄さん"といった好青年のイメージです。今回も駅で私を出迎えてくれた王さんは相変わらずの人なつこい笑顔でした。

最近はフェスティバルよりもテレビでお見かけすることの方が多いい王さんですが、テレビをはじめ映画、舞台はたまた歌舞伎と目が回る忙しさです。特にその明るいキャラクタは子供に好かれるのでしょ、NHKの子供番組では体操のお兄さんとして大活躍していました。

そんな大忙しの王さんに無理矢理時間を割いていただき、2時間ほどたっぷりとお話することができました。

王さんは1971年中国河北省に生まれ、全国で初めて設立された河北省芸術学校に7歳で入学し、同学校の雑技専門科に進み13歳で卒業しました。卒業後は雑技団に入団、23歳まで国内外公演で大活躍し、その卓越した演技を評価され数々の大会で受賞されています。

入学にあたってはこんなエピソードがあります。

お母様が小学校の先生をされていて、母親がいるその学校でたまたま遊んでいた当時未就学児童であった王さんが、芸術学校のスカウトの人の目に留まりその場で一次審査を合格し、それ以降数次の選抜試験を見事次々と突破して芸術学校に入学！



「同期生は皆ライバルです。」という王さんの言葉を裏付けるように60人ほどの入学者のうち半数程度しか卒業できないそうで、学校と言えどもとてもきびしい競争社会そのものなのです。

また在学中のきびしい練習は思い出したくもないほど過酷だったとのこと。

「肉体の限界を超えないと次には進めないんです。」という言葉は練習の激しさを彷彿させ、背筋がゾクッとしました。

練習内容の濃さもさることながら、確かに大人が思うよりも幼い子供たちにとっては親元を離れての生活は不安で寂しかったことでしょう。親とべったりの幼少期を過ごした私たちには想像を絶するものがあります。

芸術学校では雑技のための肉体訓練はもとより、舞踊、バレエ、演技、音楽などの舞台芸術に関わる全般的な基礎をみっちり教えられ、そこでの基礎訓練が現在の幅広い活動にずいぶんと役立っているようです。

辛さばかりが耳につきますが、「中国に生まれて良かったよ。」と笑ってくれたので何だかホッとしました。

王さんの才能はまさに「天分」であり、それだけの才能があればスポーツ選手、あるいはその甘いマスクを活かして映画俳優(アクションスター)や京劇俳優など、様々な道があったと思うのですが、私の何故雑技を選んだのですか、という問いに対して彼は"きっかけ"という言葉返してくれました。

今までの人生を振り返るとそこには必ず"きっかけ"があると言うのです。

何か新しい仕事を始めるには"きっかけ"が必要だし、逆に"きっかけ"がなければ新しいことは始められないと言うのです。

"きっかけ"は"チャンス"と考えても良いのでしょうか、幼い頃から競争することで自らの人生を切り開いてきた人からは意外な答えでした。

「人生努力だけではなく、ほんの少しだけでも"きっかけ"が必要なんです。」と言うのですが、その"きっかけ"はただ待っていても来るわけでもなく、"きっかけ"を引き寄せるのもやはり努力以外の何物でもないということを彼自身が証明しています。

王さんはサーカスに対する夢を語ってくれました。

技で楽しんだり驚いてもらうのは当然ですが、これからはストーリー性を持たせる等演出を工夫することにより、心まで深く響きわたり観客の一生の思い出に残るようなサーカス演技をしたいとのことでした。

また演出と言っても単に欧米の真似をするのではなく、自国文化と結びついたような演出が必要だとも仰っていました。

最近ではテレビ、いわば映像の世界で仕事をするようになり、思うことは、(まだ映像の世界のことはよく分からないけれども)テレビは時代を映し出す鏡でいわば時代を追っているわけですが、芸術の普遍性というものも考えてみたいと仰っていました。

世の中がどのように変化しようが恐らくサーカスは無くないでしょうが、そのつど形を変えていくことは容易に想像がつきます。

そんなしぶとさや柔軟さを持つサーカスの中にも確かに普遍的な何かがあります。

それが何なのかいずれ機会があれば王さんともう一度お話ししてみたいものです。

そんなに忙しくていつ練習するのですか、特にあの「五段重ねのローラボーラの上で逆立ちをする芸」はどこでどうやって練習するのですか、という野次馬的な質問には驚くべき回答が返ってきました。

「いつでも出来るよ。骨にしみ込んでいるからね。」

ぐえっ！超人わざとも言えるべきあの技がいつでも出来る！？ただただ絶句……

好青年のイメージがある王さんですが、今回話してみても彼の別の側面を垣間見ることができとても新鮮でした。

それは"一途なサーカス芸人"と言うよりも"戦士"という側面です。

幼い頃から徹底的に仕込まれたサーカス芸は、彼の骨や血そのもので、武器でもあるのです。その武器をもとに数々の競争相手に打ち勝ってきた王さんには、確かに揺るぎない自信が満ち溢れています。

そんな王さんですが、やっぱりいい人です。話していても普段の忙しさや苦勞は微塵も感じさせずに、いつもニコニコしていて。

あっという間に楽しい時間も過ぎて王さんはスタジオへ向かいました。王さんとは逆方向の電車に乗り込んだ私に向かっていつまでも手を振ってくれていて、王さんってやっぱりいい人だ。

[安部 保範 <abesan@dream.com >]



by 安部 侑子



サークル紹介

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。

今回は『ホゴノプロフィス』の紹介です。

また日本ジャグリング協会のジャグリングクラブ紹介のページ<<http://www.juggling.gr.jp/>>にも国内の多くのクラブが紹介されています。

ホゴノプロフィス (仙台)・・・本号
 <<http://member.nifty.ne.jp/HOGONOPRO/>>
 周南ジャグリングクラブ・・・13号
 横浜大道芸倶楽部 YDC (神奈川)・・・12号
 <<http://www.01.246.ne.jp/ yuji-k/>>
 ジャグチュー (北海道)・・・11号
 <<http://page.freett.com/sjc/>>
 大津ジャグリングクラブ (滋賀)・・・10号
 <http://www.biwa.ne.jp/ torisan/fr_juggling.htm>
 ジャグリングクラブ tossLife (東京都)・・・9号
 <<http://www1.linkclub.or.jp/ swing9th/tossLife/>>
 大阪大学ジャグリングサークル Patio (大阪)・・・8号
 <<http://patio.wo.to/>>
 京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts (京都)・・・7号
 <<http://juggling-donuts.org>>
 福岡ジャグリングクラブ FJC (福岡)・・・6号
 <<http://zodiac30.cse.kyutech.ac.jp/ ooshige/Juggling/>>
 筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会
 筑駒Jugglers (東京)・・・5号
 <<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>>
 所沢ジャグリングクラブ JUGFLY (埼玉)・・・4号
 <http://www2c.aimet.ne.jp/ichiro_t/juggling/jugfly/>
 綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)・・・3号
 <<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/9108/>>
 ジャグリングクラブ マラバリスタ (東京)・・・2号
 <<http://www.malabaristas.com>>
 ジャグリングサークル JUG (大阪)・・・1号
 北里大学獣医畜産学部ジャグリングクラブ (青森)
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/5397/>>
 ジャグリング友の会 (東京)
 <<http://home2.highway.ne.jp/sinzirou/>>
 立教大学パフォーマンスサークル どりいむ・ぼっくす (東京)

<<http://www.rikkyo.ne.jp/ 00ia007t/doribo.htm>>
 小平ジャグリング倶楽部 (東京)
 <<http://www.mailhost.net/ masaki/kjc/>>
 ジャグリングクラブ まめぞう (東京)
 <<http://mamezou99.tripod.co.jp/index.html>>
 東京工業大学ジャグてっく (東京)
 <<http://www4.nasuinfo.or.jp/ shu/index.shtml>>
 電気通信大学ジャグリングサークル "Le Passage"
 <<http://members.jcom.home.ne.jp/junkoma/p-index.htm>>
 市原ジャグリングサークル JugJug (千葉)
 <<http://www3.plala.or.jp/jugjug/>>
 千葉大ジャグリングサークル ポッサム
 <<http://www.sakurasoft.co.jp/ possum/>>
 千葉東高校ジャグリング同好会
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Cafe/9745/>>
 静岡大道芸サークル WAPS (静岡)
 <<http://www.tomi103.com/waps/>>
 New Japan Juggling Club (愛知)
 <<http://www.katch.ne.jp/ mine/jug/>>
 春日井ジャグリングクラブ (愛知)
 <<http://www.tcp-ip.or.jp/ n01/kjc/>>
 NJC (名古屋ジャグリング倶楽部)
 <<http://njc.xtaro.com/>>
 金沢大学ジャグリング&マジックサークルJMC
 <<http://jump.uic.to/uen0/>>
 福井ジャグリングチーム FJT (福井)
 <<http://bishop.fuis.fukui-u.ac.jp/ nishio/ft/>>
 四国ジャグリングクラブ (新居浜)
 <<http://powers.gr.jp/four-live/>>
 九州良児技団 (北九州)
 <<http://www.iris.dti.ne.jp/ ritsue/>>
 九州工業大学 ピルエット

<<http://pirouette.club.kyutech.ac.jp/>>
 西南学院大学ジャグリングサークル (福岡)
 <<http://members5.tsukaeru.net/s.g.u.j.c/>>

【ホゴノプロフィス】

ホゴノプロフィスは仙台市の芸術文化の振興とコミュニケーションネットワークの構築を目的として1998年1月に発足した本郷仁一プロデュースによる総合芸術ユニットです。

現在、ホゴノプロフィスは大きくわけて2つの部門から構成され、「アート部門」では写真展や創作活動を、「パフォーマンス部門」ではヨーヨーやジャグリングによる活動をしています。



今回はジャグパル誌に寄せてパフォーマンス部門の紹介をしましょう。

ヨーヨーブーム全盛期の頃、仙台にあった某ヨーヨー専門店に集っていた少年達と出会い、趣味で写真展やイベントのプロデュースしていた中でヨーヨーやディアボロによる練習や発表の場を取り入れたのが現在に至っています。

現在、活動人数は約7人。発足当初は東北地区のヨーヨー少年達を中心に15人程度で活動していましたがブームが終わると共に続ける少年も減り、現在では東北大学奇術部の人やジャグリングを愛好する少数のメンバーで構成されています。

中学生から大学生、年齢の倍違う社会人と幅広い年齢層のメンバーがニックネームや愛称で呼び合い、和気あいあいとジャグリングを楽しんでいます。それでは、その主な参加メンバー名と年齢分布図をご覧ください。

10代 慎ちゃん、ジョリオ、やべっち、しょーたん
20代 東北大奇術部の皆さん
30代 ホゴムラ名人、ドクターDIO

主な活動内容は、仙台市や市民活動などの地域イベントへの参加、月例練習会によるジャグリングの技術向上、国内外大会への参加などです。ジャグリング活動3年目となった今年は、昨年にも増して各方面から声がかかり、NPO活動、教育、福祉、まちづくりなどさまざまなイベントに参加させていただきました。

その一連のイベントにタイトルをつけるのもホゴプロフイス流。
今年は夏のイベント週間を「ジャグリズムツアー」、秋のイベント週間を「ストリートジャグフェスティバル(ジャグフェス)」と題し、いかにも自主イベントを装ったチラシなども作成して広報をしています。ひどいですね(苦笑！)



東洋医学から見るジャグリングのすすめ

【東洋医学から見るジャグリングのすすめ(第五回)】

皆さんは「正しい姿勢の人を思い浮かべて」と言われたら、どのような姿を想像しますか？

戦争を経験されている年配の方は、肩を上げて緊張気味に「気をつけ」をしている姿を思い浮かべるでしょうし、バレエやダンスの経験がある方は、背筋を伸ばし、軽く胸を張り、腰を反った様な姿を思い浮かべるかも知れません。

また、各スポーツではその競技に適した姿勢がありませんし、芸事の種類によっても差があるでしょう。しかし、これら全てにおいて目指すべき共通の課題は、「健康でいられる姿勢」ではないでしょうか？

そんなホゴプロフイスをジャグリングサークルと呼ぶにはふさわしいのか疑問ですが、宮城県隣県では唯一のサークルだと思われます。

なんと、2001年5月より仙台市の市民活動サポートセンター内に事務所を設置。

さらに毎日夜9時半まで無料で利用できる屋内練習施設の確保など非常に恵まれた環境にあります。

そしてホゴプロフイス参加メンバーから今年のジャパンジャグリングフェスティバルで矢部亮君が3位入賞、ジャパンヨーヨーコンテストで斉藤慎司君が優勝者として輩出できたのは本当にうれしく思っています。

2002年もアートの視点からジャグリングを見つめ、さまざまな面でクリエイティブに活動を繰り広げたいと思っています。

ホゴプロフイスは面白いモノを「見れる・見られる・魅せられる！」そんな場を創造していきます。

月例練習会以外にも各自が都合の良い時間に集まって練習をしていますので、ぜひ皆さま遊びにいらしてください。

詳しい活動はホームページならびにメールニュースを配信していますのでチェックしてみてください。今後とも「あなたのハートにラ・ケブラーダ ホゴプロフイス」をどうぞよろしく願いいたします。

ホゴプロフイスホームページ
<http://member.nifty.ne.jp/HOGONOPRO/>

ホゴプロフイス事務所：
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目8-15
市民活動サポートセンター内(レターケースNo.116)

[本郷 仁一 <gf03211@nifty.ne.jp>]

～ 正しい姿勢 <入門編> ～

今回から何回かに分けて、脱力をベースにした感覚性優位になれる姿勢を考えていきます。しかし、「立ち方10年、歩き方10年」等と言われる様に、いきなり正しい姿勢をとろうとしてもまず無理です。

道を歩いている人をよく観察してみてください。生まれ持った体型や骨格、今まで生きて積み重ねてきた動作のクセ等、すぐに変わるようなものではありません。

そこで今回は入門編という事で、「最低限これだけは」という注意事項を説明していきます。

簡単なものに絞らせて頂きましたので、既に出ていた方も多いたと思いますが、自分で意識出来ていないだけで、もしかすると体にとっては負担になっていることがあるかも知れません。

注意事項と一緒に起こりやすい症状も挙げておきますので、ジャグリングの練習により症状が悪化するようであれば注意が必要です。

顔・首

- ・顔が正面を向いていますか？
- ・歯をくいしばったり、表情がこわばっていませんか？
- ・顎(あご)や首の周りに緊張がありませんか？

顔はもちろん正面を向いていなければなりません。入門者は体が前傾姿勢で、ボールを投げ上げる位置が高くなりがちなので、顔が上方に向いてしまい、後頭部に緊張が出やすくなっています。真正面を向きましょう。

上方を向かなければならない技の場合は後頭部(首の後ろ)の筋力で上を向くのではなく、首の前側(のど)周辺を脱力すると、筋緊張を伴わずに上を向けます。

稀にですが、歯を食いしばったり、顔面を強張(こわば)らせて練習されている方を見かけます。脱力系の武道では、顔や顎の力が抜けない人に「口から舌を出して練習しろ」と言うそうです。

首の側面(耳の下辺り)に緊張を作っている方も多いようです。

シャワーやファクトリー(ロボット)等、左右の腕の位置(高さ)が違う技を得意にしている方は、片方だけ練習するのは危険です。片側の首だけが緊張し、頸部(首の骨)が歪みます。

原因となる動作があれば反対側を多く練習しましょう。

顔・首の緊張やバランスの崩れで起こる症状

ジャグリングで使う手の神経は首(頸椎)から出ています。

従って、手や腕の神経痛(マヒ)、肩こり、五十肩、手指のシビレ、寝違い、上肋間神経痛、首の凝り、等

首には内頸動脈(血圧・心拍・呼吸の調節)と外頸動脈(頸部・顔面・頭蓋・脳 硬膜に血液を送っています)が通っています。

従って、目・耳・鼻・口の症状全般、頭痛、偏頭痛、脳卒中、脳充血、脳腫瘍、高血圧、不整脈、狭心症、喘息、咳、気管支炎、動悸、不眠、食道咽炎、扁桃炎、等

顔面の筋や顎関節の緊張は、直接以下の症状に結びつきます。

顔面神経痛(マヒ)、三叉神経痛(マヒ)、歯痛、顎関節症

上記のように、大事な血管・神経・リンパ節、等が細い首の中を通っていますら、頸椎の歪みがひどく、脊髄にも圧迫がある場合は様々な内臓の症状も出る場合があります。

自律神経失調症、うつ病、更年期障害なども、頸部の歪みから起こしている方を多く見ます。

(注意)・これらの症状は体の使い方によってのみ起こるものではなく、様々な原因によって起こりますので、症状の重い方、気を付けていても悪化されている方は、一度専門の医師に相談して下さい。

§ 次回予告 §

今回は本当に簡単になってしまいました。

にこにこ笑いながら楽しそうに練習されている方達は、顔や首に緊張が出る人はいないと思いますが、一生懸命やり過ぎる方、真面目すぎる方は注意が必要ですね！

次回は、肩関節です。



ジャグリングと児童福祉法

川崎昭一さん(サーカス)の場合:

『サーカスを一本指で支えた男/文遊社/石井達朗
聞書』

(トンボ返りの練習で)ところが、初めてやる子供はそんな器用に立てるもんじゃない。ベターッと尻モチついちゃうんだ。そこでね、板に釘を何本も差して、とがったほうを上に向けて、ケツの辺りに置いておく。子供は、なるべく刺さらないようにやるから、だんだん立てるようになっていくわけ。まあ、無茶苦茶な教え方だね(笑)。最初は釘がケツに刺さる。何本も刺さる。

昔はね死んだら死にっぱなしでいいんですよ。子供のひとりやふたり死んだって、どうってことない、そんな時代だった。ほかにくさるほど、子供がたくさんいたからね。死んだら、つぎの奴をぶんなくって仕込んで、けなわけだから。

明日また稽古でぶんなくられる、釘をケツに刺される、むちでぶったかれる、弓で射られる……なんて思いながら、それでも疲れ切っていて、すぐ寝ちゃう。涙なんかひとつも出なかった。

十二代目鏡味小仙さん(太神楽)の場合:

『日本の芸談7 雑芸/九藝出版/後藤澄夫 聞書』

それで朝は五時起き。まだ仄暗い路上へ出て曲芸の稽古をする。ランニングとパンツ一枚、そして素足だ。服を着ると叱られました。寒中でもその格好でやらされたものです。

手がかじかんで利かなくなってしまうと、電柱に思いっきり手の甲をぶっつけるのです。何度も何度も叩きつけると、手が赤くなる。その赤くなったのをカサカサこすり合わせるとあったかくなってきました。そして、また稽古を続けるのです……。

越後獅子角兵衛獅子の場合:

『逆立ちする子供たち/阿久根巖/小学館』

躰の第一学年はおよそ七、八歳頃から始まる。訓練教程の第一歩は体を後方にしなはせることである。まず後方にしなはせることの訓練には親方が子供の爪先を踏へ、腰を抑える、そして体を後方にしなはせる。一日は一日と程度を強める。

いわゆる早業もしくは曲芸といふに仕上がった。此間五、六年を要した。即ち十四、五歳までに一通りの教程が終わるわけである。時人は此の修練の道場をのぞき見て、驚きのあまり形容の詞をしらずただ"虐待"だと言った。

いやはや何とも凄まじい。昔の話とは言えずいぶん刺激的ですね。

超一流を目指すにはどのような形での訓練が望ましいのかは門外漢なので見当もつきませんが、芸能特に身体表現を伴う芸能はやはり幼い頃からの練習が必要なのでしょう。

さらに彼らは幼い頃から既に芸人を職業としていたわけですから。

しかし前述の特に川崎昭一さんの例は、練習と言うより人権を無視した行為で許されるべきものではないでしょう。

一方王健さんが仰っていたように、「限界を超える」練習をしないとスポーツにしる芸にしる頂点を極められないようで、ただ自分の意志が確立していない児童への指導が練習になるのか虐待になるのか、その線引きには難しさが伴います。

さてこんな話を聞いたことがありませんか。「日本のサーカスには子供が出られない」

そこで調べてみました。

『児童福祉法(昭和22年法律)』という法律があり、以下のような規定があります。(法制上、児童とは満十八歳に満たない者をいいます。)

第五節 雑則

第三十四条 何人も、次に掲げる行為をしてはならない。

一 (略)

二 (略)

三 公衆の娯楽を目的として、満十五歳に満たない児童にかかるわざ又は曲馬をさせる行為

四 満十五歳に満たない児童に戸々について、又は道路その他これに準ずる場所で歌謡、遊芸その他の演技を業務としてさせる行為

今どき"かるわざ"とか"曲馬"とか口にする人もいないでしょうし、一体何を意味するのかも現在では曖昧かとは思いますが、とにかく日本では15歳未満の児童はサーカスに出演できないということです。

ジャグリングも内容によるとは思いますが、"かるわざ"の範疇に入るかもしれませぬ。

四項から判断すると大道芸もダメなようですね。

ここで単純な疑問がうかびます。ではスポーツなら良いのか。

今やスポーツ界もエリートの低年齢化がすすみ、十代の選手が大活躍しています。

スポーツはもはや公衆の娯楽でありビジネスでもあり、種目によっては"かるわざ"ともとれるものがいくらでもあります。

この要件は前述第三十四条を満たすものではないのでしょうか。

不思議なことはまだあります。

『サーカスに働く年少者/労働省婦人少年局編/1950年』という調査資料を見つけました。

これは年少労働者保護の立場から、1948～49年にかけて労働省が全国のサーカス団の実態調査を行ったその結果報告書で、具体的には安全、衛生および福祉の見地から、賃金、労働時間、休日、入団経路、家族、教育など様々な項目の調査が実施されました。

驚かされたのはサーカス芸一つ一つに対して図解付きで演技を説明し、各々の芸に対して法制上の観点からの規定を明記、つまり規制を課していることです。(演技は二十数種類紹介されており、これを読むだけで日本サーカスの技に詳しくなれます。)

例えば演者の肩に長くて太い青竹を立て、その青竹の最上部で上乗りと呼ばれる演者が様々なポーズをとる「差しもの」と呼ばれる演技では、こう記されています。

1. 満15歳未満の者については禁止する。
2. 上乗りを演ずる満15歳以上満18歳未満の者及び女子は5m以上の高所において演ずる者についてはこれを禁止する。
3. 肩にて物を差す満15歳以上満18歳未満の者及び女子については、女子年少者労働基準規則第12条の重量物取扱いに関する規定に触れない限り、これを認める。

これは『女子年少者労働基準規則(昭和22年労働省令)』がもとになっているのですが、本規則は今は『年少者労働基準規則(昭和29年労働省令)』となっていて、内容としては年少者保護の観点から業務に照らし合わせて種々の就業制限、あるいは就業禁止を記してあります。

前述した児童福祉法の第三十四条の同文も見つけることができます。

確かに本規則内の(重量を取り扱う業務)の項を読むと年齢に応じて断続作業の場合には何kg、継続作業の場合には何kgまでとか書かれてあり、(年少者の就業制限の業務範囲)の項では、高さが五メートル以上の場所で、墜落により労働者が危害を受けるおそれのあるところにおける業務は禁止と書いてあるのですが、これらの条文はサーカスの事などは意識していなかっただろうし、何だか後付といった感じで釈然としません。

このような縛りをサーカス演技全てに課しているのです。(この縛りが今現在も適用されているかどうかは分かりません)

さて『労働基準法(昭和22年法律)』には、若干の制限が付きませんが、映画の製作又は映写、演劇その他興行の事業では満13歳以上の児童を使用することができ、しかも映画の製作又は演劇の事業については満13歳に満たない児童も使用できると書いてあります。

これがあるから小中学生が大手を振ってTV等に(夜でも)出演していただけるのでしょうか。

そういった児童(TVタレント)のバク転などアクロバティックな動きを目にすることは多々あるし、屋外で活動することだってあるのですが、これは先の児童福祉法第三十四条に抵触しないのでしょうか。

欧米の超一流ジャグラーはほとんど例外なく幼い頃から練習をし始め、早くから数々の舞台経験をふんで成長していきます。

確かに児童の諸権利は守られるべきでこれは誰もが異論のないことですが、この何でもありの21世紀ですらサーカスをはじめとするパフォーマンスアートが職種として極めて特殊なものとしてとらえられていることに不思議さを感じます。(サーカスの場合は業界努力も足りないとは感じますが)

パフォーマンスアートの文化的発展を願うとき、我が日本では何が不足していて、何が障害になっているのでしょうか。

いろいろな切り口から考えてみることも有意な方法だと思います。

全くもってまとまりが無く、何を言いたいのか分からない文章ですが、本文中での間違いやお気づきの点がございましたらお知らせください。

[安部 保範 <abesan@dream.com>]



お役立ちノウハウ

【おめでとう！】

「今度結婚するんだけど、披露宴で余興やってくれない？」
 ジャグリング人口増加の一翼を担った元・学生の皆さんにも、卒業して数年経って、こんな頼まれ事が飛び込んできているのではないのでしょうか？

大道芸やステージとはちょっと違った、結婚披露宴や二次会での余興。その傾向と対策です。

余興はなんのためにある？

あなたに余興を依頼した友人は何を求めているのでしょうか？
 完璧なパフォーマンス？単なる場つなぎ？ちょっと違います。

彼/彼女は、あなたという「ちょっと変わった特技の持ち主」を招待客に見せ、「さんって素敵な(or 変わった、面白い)お友達をお持ちなのね」と思われたいのです。

観客はあなたの個性や芸を見て楽しむことによって、間接的に彼/彼女の人の柄を知ることになります。

芸のレベルが高ければもちろんそれに越したことはありませんが、お祝いの気持ちのこもった楽しく明るい演技をして来客から好感をいただいてもらうことができれば、それで満点がとれるのです。

多少自信がなくても積極的にどーんと言っていきましょう。

逆にどれほどすごい事をして、芸人エゴ丸出しの演技や披露宴という場と何の関係もない演技では50点止まりです。

披露宴ならではの落とし穴

披露宴のような場では、次のような落とし穴に気を付けましょう。

(1) 出番の前に酔っぱらってしまう

技の成功率が落ちるばかりか、少量でも酒を飲むと息が切れやすくなり、声の通りがてきめん悪くなります。
 可能なら飲まぬが吉。

(2) 酔っぱらいの茶々やつっこみ

めでたさ余って酒を過ぎ、茶々を入れてくる人も時にはいます。

悪意のある人はいないので、友好的に軽くかわして自分のペースを守りましょう。

勝手に前に出てきても助手などには使わない方が無難です。

(3) 「巻き」が入る

前のスピーチや余興が長引き、持ち時間が短くなることはありがちです。

自分の演技の所要時間を把握し、演技をいくつかのモジュールに分けておくに対応できます。
 自分の演技が長くなるのは禁物。司会者や友人に時間を合図してもらおうと良いでしょう。

(4) 重ね言葉、忌み言葉

公式の祝辞ではないので神経質になる必要はありませんが、アドリブだけに頼るとつい出てしまうので、配慮した口上を事前に用意しておくのがよいでしょう。

もしうっかり言ってしまっても、あわてたり無理にとりつくろったりしなければ目立ちません。

(5) 道具のチェック、忘れずに

とはいえ、おめでたい席で道具が壊れたり、割れたり、破れたりするのは感心しません。
 壊れそうな道具は修理するか、新品に替えましょう。

(6) 新郎新婦に助手になってもらう場合

新婦は裾の広がったドレスを着ていることが多く、容易には身動きできません。
 また手袋をしていると簡単には脱げません。

演技の都合上、新婦に助手を頼む場合は十分な配慮と事前の打ち合わせが必要です。
 新婦を登場させる演技をすれば場が華やぎますが、余興の時間は忙しい新婦が食事をできるチャンスでもあるので、助手になってもらった方がよいかは考えどころです。

その点、新郎の方が身軽で「いじりやすい」のですが、飲まされ過ぎて泥酔していないかどうかだけは気をつける必要があります。
 もちろん衣装が汚れるようなことや品のないことをさせてはいけません。

(7) 会場の制約

前もって用意していない限り披露宴会場に広いスペースはないし、大道芸のように観客の輪を広げるわけにもいきません。
食器満載のテーブル、偉い主賓、そびえ立つケーキが回りを取り囲んでプレッシャーをかけてきます。その一方で観客は着席していて、演者の胸から下は見えません。
このような環境では使う道具や演技の内容はかなり制約を受けてしまいます。

2人でクラブパッシングをするのはまず不可能だし、演技位置の低いリバンスやシガーボックスは観客から見えません。
逆に、頭上で演じる、傘の上で物を回す芸や皿回しなどはよく見えて好都合です。
トスジャグリングでは、低い位置での技を避け、胸より上の技を多くすると良いでしょう。

とは言っても天井があるのであまり高さのある技はできないのがつらいところですが、ドロップしたボールが弾んでコーヒーにポチャン、転がってテーブルの下へということもあるので、ビーンバッグが無難でしょうね。背景や服の色と道具の色の対照も見えやすさのために重要です。

その他のアドバイス、チェックポイント

(1) 事前リサーチは十分に

会場の広さ、舞台の位置、天井の高さ、床の材質、舞台後ろの壁の色、利用可能な機材(ひな壇、テーブル、ワイヤレスマイク等)、使える音源、持ち時間、他の余興の内容、などはできるだけ事前に聞いておくと、当日あわてなくて済みます。

(2) 会場入りは余裕を持って

会場の下見、司会者やBGM担当者との打ち合わせ、などを開演前に済ませましょう。

照明のあたり具合やまぶしさ、マイクがハウリングを起こさない位置も調べておくこと。
もちろん、新郎新婦に声をかけてお祝いを述べる時間をとるのも忘れずに。

(3) 司会者は使いよう

特にプロの司会者は、敵にも強い味方にもなりえます。

上手な人は適切な前振りと紹介をしてくれますが、サービスのつもりで要らぬ事まで全部しゃべってしまう人も時にはいます。
自分について紹介して欲しい点、自分のネタにするから言わないで欲しい点を伝えておくこと。

(4) BGM

音楽をかけるきっかけ(キュー)と曲の番号を紙に書いて担当者に事前に渡しておきます。

曲数が多いときは編集して、ただ流せばいいだけにしておかないとうまくいきません。
テーブルは頭出ししておくこと。

(5) 助手は事前に頼め

大道芸と違い、演技中に助手を募っている時間はないし、出てきてもらうにも時間がかかります。
新郎新婦に適当な人を紹介してもらっておき、あらかじめ段取りを説明しておくこと。

助手にも簡単な自己紹介を考えてもらいます。
演技の中ではいねいな扱いと拍手を忘れずに。

(6) スピーチ、余興はよく観ておこう

出番までは自分も観客です。他の人のスピーチや余興に対して拍手をしたり笑ったりしてポジティブな反応を返しておくと、友好的な雰囲気観客を作れます。

また、よく聞いておくと思わぬネタが拾えることもあります。

(7) 新郎新婦の名前

特に直接知らない方の名前はド忘れしてしまうこともあるので、両方のフルネームを自分だけに見えるところに書いておくとい良いでしょう。

万一、それも忘れてしまったら「新郎、新婦」でしのご非常手段もあります。

(8) 親族席への配慮

披露宴会場後方の親族席には、新郎新婦の祖父母など、歳をとって目や耳が弱っている方が座ることがあります。また、全体に年齢層も高めです。

舞台がよく見えて年齢層の近い人が多い手前の席だけを相手にしてしまい、親族席が置いてきぼりになるのはよくありません。

一番遠い親族席にもよく見える演技とよく聞こえる発声、中高年層にも通じるネタを心がけると、全体のバランスがよいと思います。

(9) 披露宴を楽しもう

自分の出番だけを気にしていたのではつまりませんし、招いてくれた新郎新婦にも失礼というもの。

(6)にも通じますが、食事や同席者との会話を十分に楽しむように心がけた方が、自分も楽しいし、よい結果につながるのではないのでしょうか？

その意味では、衣装替えやメイクは必要でも最小限にとどめ、長時間の中座は避けましょう。

(10) やっぱり主役は新郎新婦

自分の芸をうまく見せるだけでなく、主役である新郎新婦に観客の意識が常に集まるようにするのが本来の目的にかなった演技といえます。

新郎新婦に簡単な助手を頼むのも手ですし、着席したままの新郎新婦への簡単な質問や掛け合い、自分が知っているエピソードなどを演技に織り込むのもよいでしょう。

新郎新婦席の横や前で演技をする場合、観客の大多数の方へ見えやすい方を向くと、芸をやっている最中は新郎新婦の方を向けませんが、拍手をもらうために小休止したときやポーズを決めたとき、演技終了後の拍手を受けているときには、新郎新婦へのアイコンタクトをはっきりと入れましょう。

これは新郎新婦を楽しませるためだけではありません。

観客にもはっきり分かるように新郎新婦へのアイコンタクトを入れることにより、演者を見ている観客の視線を新郎新婦へ誘導し、主役の二人へ意識を集める効果があります。

最後に

結婚披露宴や二次会は、招待客も「何か楽しいものを見たい、聞きたい」という前向きな気持ちを持っている上、観客が逃げ出す心配もなくて、かなり演技をしやすい環境です。

余興を頼まれたら尻ごみせずには是非引きうけてあげましょう。

一番必要で大事なものは、お祝いの気持ちと新郎新婦の友人である自分のキャラクター、そしてそれらを表現するための創意工夫です。

友人のあなたにしかできない、あなたらしいパフォーマンス、それが一番の贈り物になります。

数十年経って、押入れの奥で見つけた思い出のビデオを見た夫婦が、あなたの芸を見て笑ってくれたら素敵じゃありませんか？

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]

編集後記

念願かなって王健さんにいろいろなお話を直接お伺いすることが出来ました。とても楽しかった。

私的なことですが、勤め先で異動となりめちゃ忙しい職場で日々奮闘しております。今までのようにあちらこちらに顔を出すこともできなくなりそうですが、このジャグパルは何とか頑張って続けていきたいと思います。今後ともよろしく！

ジャグパルは私という一個人が野次馬根性丸出して、単なる趣味として発行しているものです。従って特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人には一切関係していません。

ジャグパルはWeb上でも見られます。(Webだと写真等はカラーです)

紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。

WebSite: <<http://homepage1.nifty.com/abesan/>>

編集発行人: 安部保範

住所: 横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)

E-mail: abesan@dream.com Nifty: QGB02014

WebSite見世物広場: <<http://plaza4.mbn.or.jp/chansuke/>>